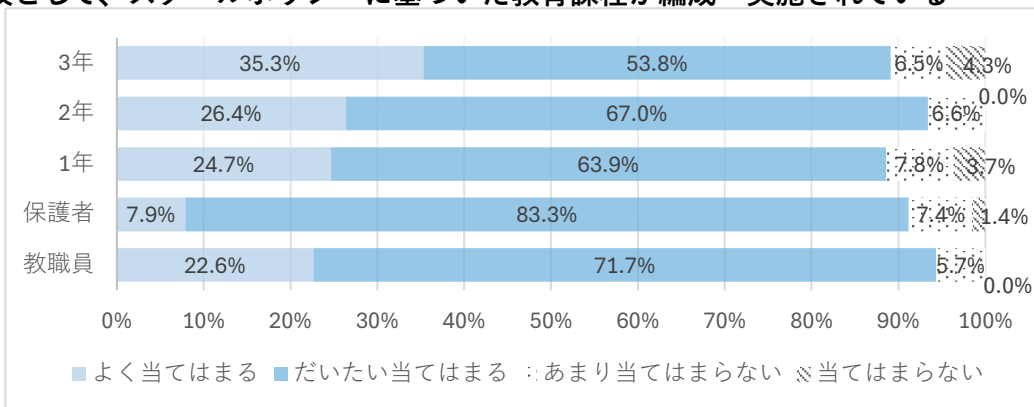


【回答集計結果】

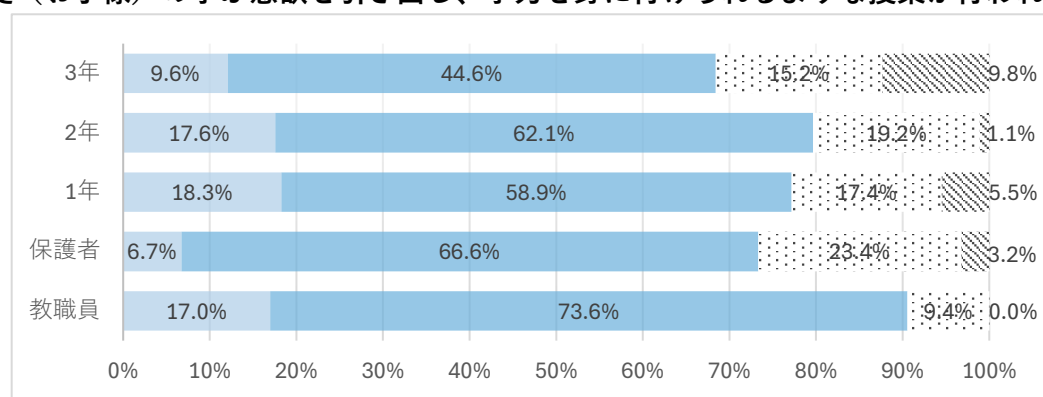
～全県共通質問事項～

①学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている



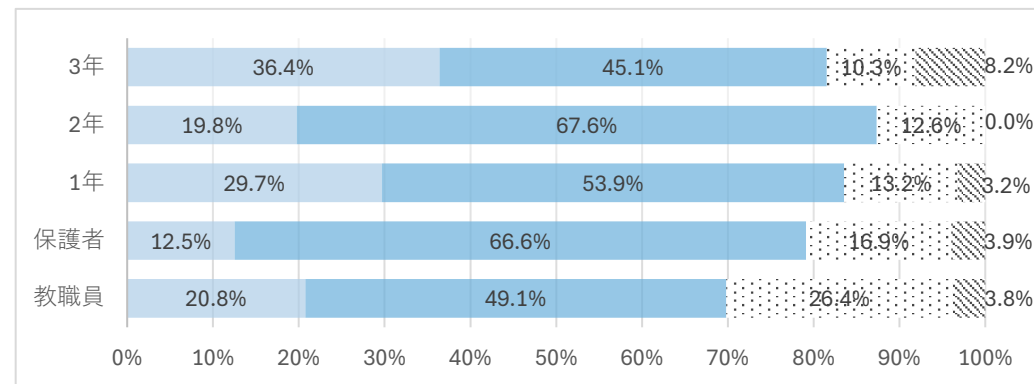
昨年と比べ、2年生徒、教職員については「当てはまる」「だいたい当てはまる」（以下「肯定的評価」という）の回答割合が増加したものの、1年・3年生徒、保護者については減少した。ホームページや配布文書等とおして、本校のスクールポリシーや教育課程の特長についてさらに周知するよう努める。

②生徒（お子様）の学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている



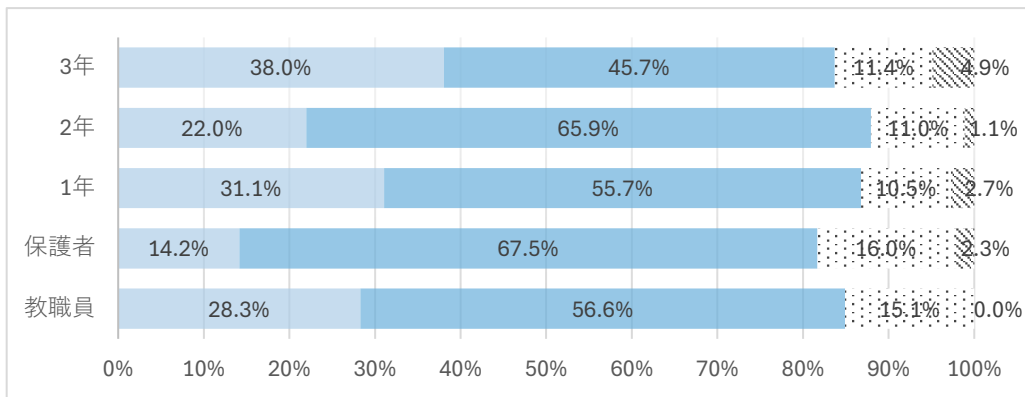
昨年と比べ、2年・3年生徒、教職員については「肯定的評価」の回答割合が増加したものの、1年生徒、保護者については減少した。特に1年の肯定的回答割合が低い結果となっているため、授業改善を続け生徒の学力向上につながる授業づくりを目指す。

③生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている



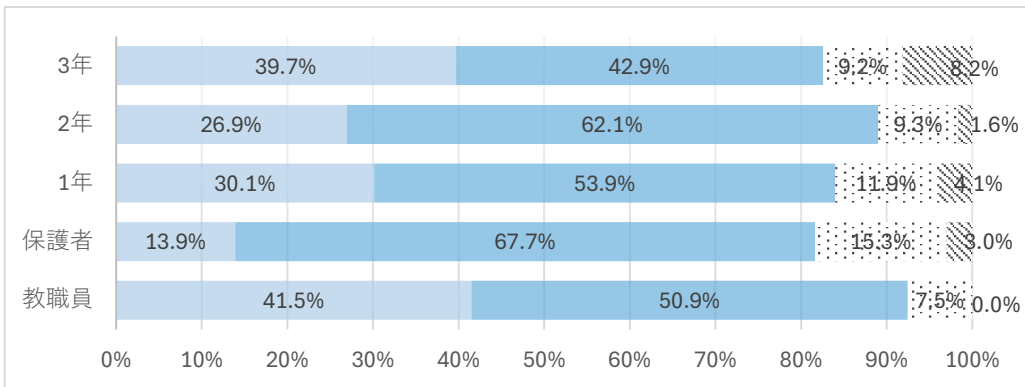
挨拶やマナーなど一部守れない生徒が存在し、指導についても不足であるという結果が見て取れる。「否定的評価」について、生徒、保護者よりも教職員の回答割合が若干高めにしている現状は指導に苦慮している面があると捉えられる。教員主導の指導のみならず、生徒会からの発信も含め、生徒自身の意識改革も促していきたい。

④生徒（お子様）の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている



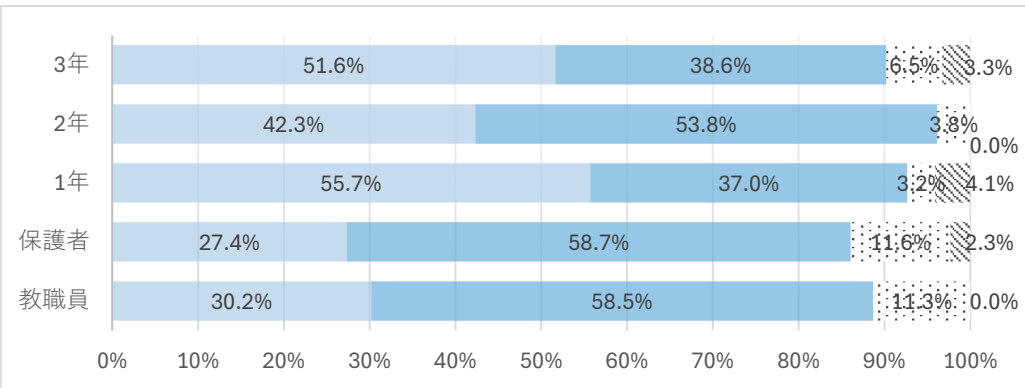
概ね例年と傾向は変わっていない。昨年度より保護者において「否定的評価」が減少している。昨年度より実施している1, 2年生の保護者向けガイダンスや配信による進路情報の提供などにより、保護者も子どもと共に進路について考えるようになったのではないだろうか。生徒においては「肯定的評価」が多かったが、生徒の実態とはギャップがあるように感じられる。特に低学年において実態が伴うよう指導していきたい。

⑤生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている



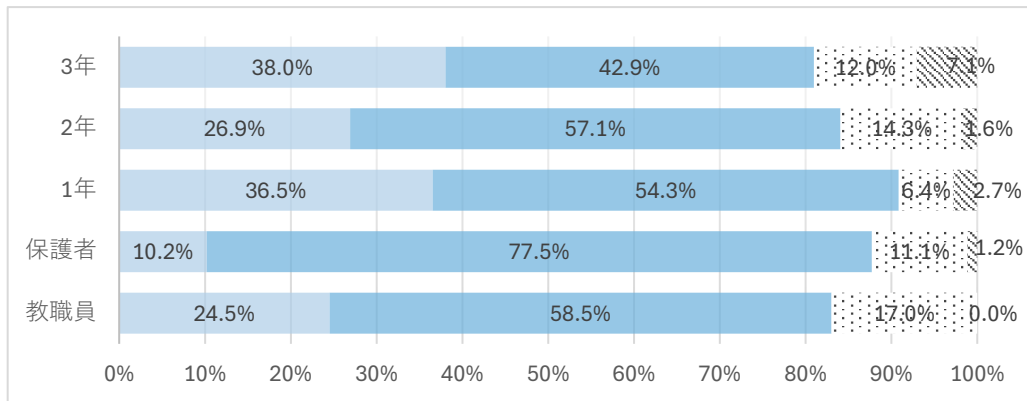
生徒・保護者・教職員ともに、昨年度と同様に「肯定的評価」が全体の8割を占めている。近年は生徒の悩みが多様化し、相談件数も増加していることから、外部機関との連携や紹介も含め、今後さらに相談体制の充実に努めていきたい。

⑥学校として、部活動は活発に行われている



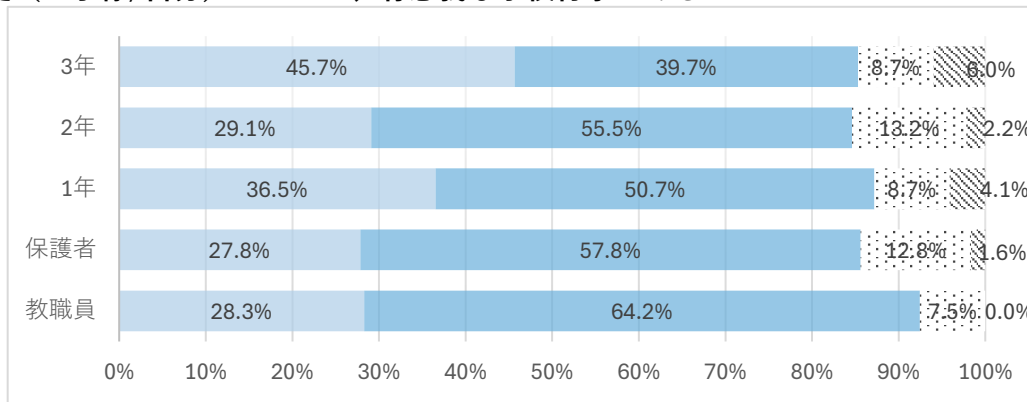
「肯定的評価」が全体の8割から9割に達している。概ね満足している結果と考えて良いと思われる。部活動は中学校から地域移行型へとシフトしており、それぞれの希望に沿った活動ができていると分析することもできる。

⑦学校として、生徒会活動は活発に行われている



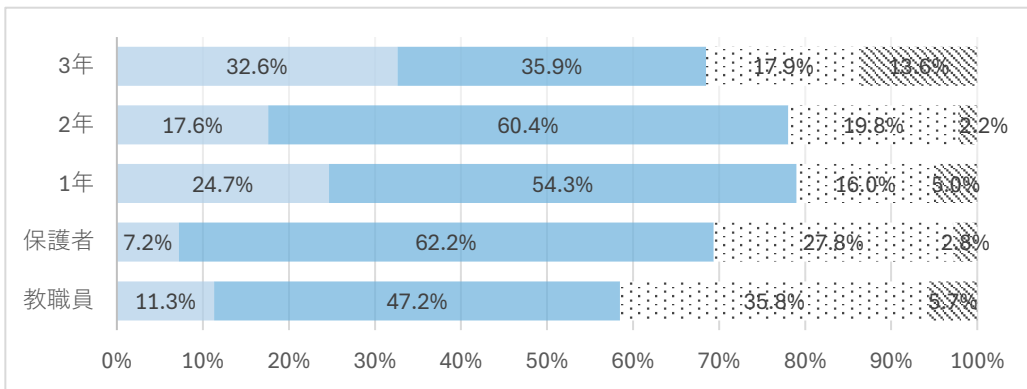
「肯定的評価」が全体の8割に達している。生徒会では毎週の定例会議を重ね、生徒会行事のスムーズな運営につながっている。今後は更に生徒会としての役割を充実させるとともに、全校生徒への働きかけの在り方を工夫し、リーダーシップを育成する機会を検討していきたい。

⑧生徒（お子様/自分）にとって、有意義な学校行事がある



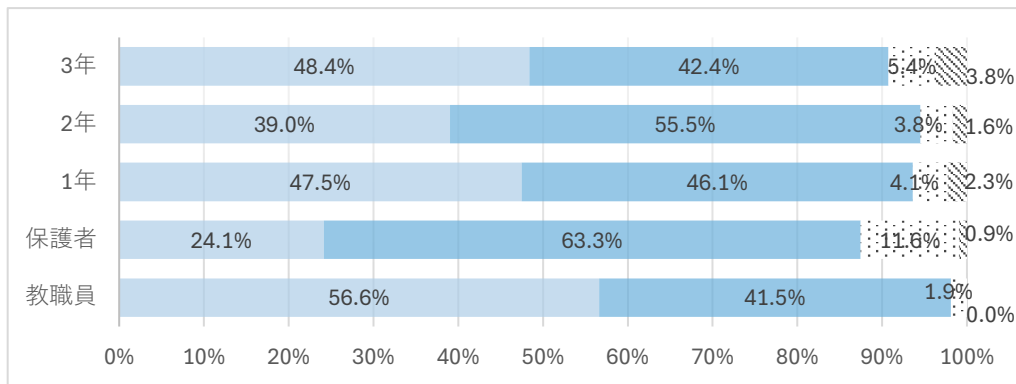
「肯定的評価」が全体の8割に達している。授業日数確保の観点から、コロナ禍以降は行事が精選されているが、今後も行事の目的や実施内容に着目し、生徒にとってより有意義な学校行事が開催できるよう検討を重ねていきたい。

⑨学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる



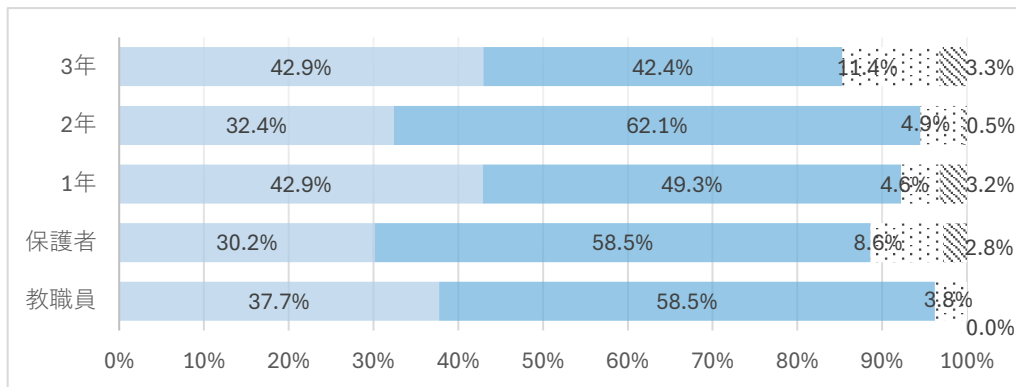
地域行事の運営ボランティアとして有志参加の協力や、開校記念行事として記念講話を実施している。生徒、保護者の回答と比較すると、教職員の「肯定的評価」が若干低くなっているため、本校の特色を活かした企画を立案できるよう、意識向上に努めたい。

⑩保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている



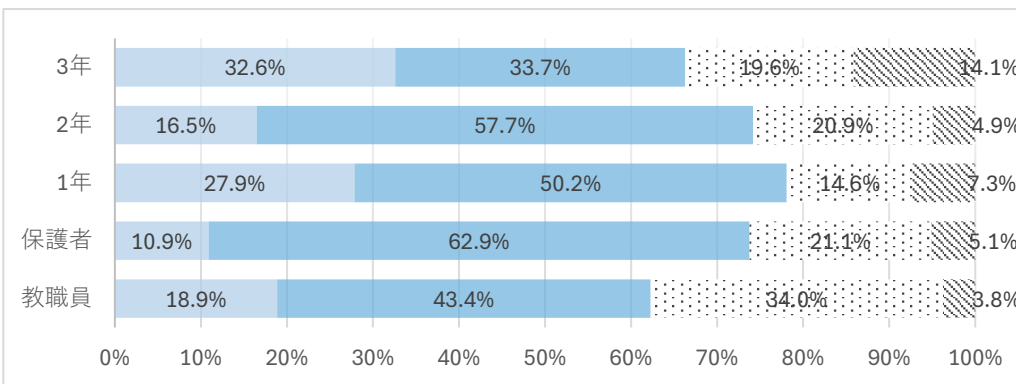
昨年度と比べて全体的に数値の改善がみられる。防災避難訓練を一次避難場所であるグラウンドで実施することができたり、外部講師を招いての防災講話を学年ごとに実施できたりしたことも大きな要因であったと思われる。引き続き防災意識を高めるための啓蒙活動を継続していきたい。

⑪保護者に対して、学校便りなどによって学校の情報は適切に伝えられている



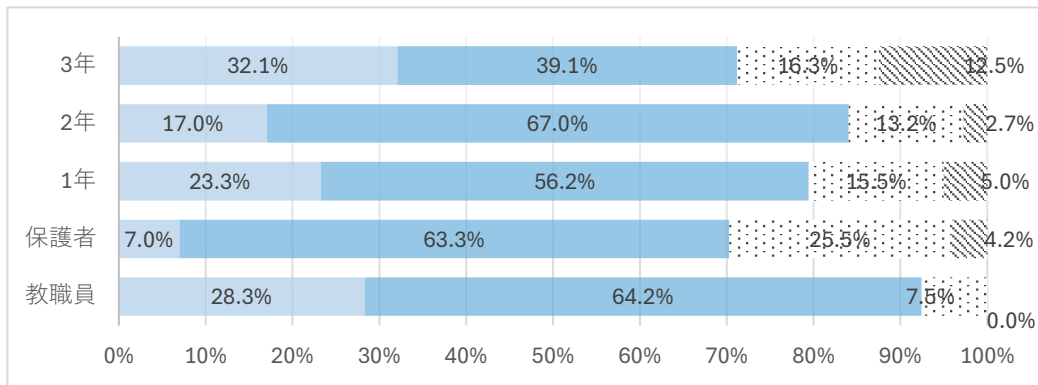
「学校だより」のHP掲載、「学年だより」のClassi配信により、保護者への定期的な情報提供を行っている。また、HPは県内でもトップクラスの更新頻度である。教職員の約96%、保護者の約86%の「肯定的評価」を得られた。100%を目指し、今後もこまめな情報提供を続けたい。

⑫校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている



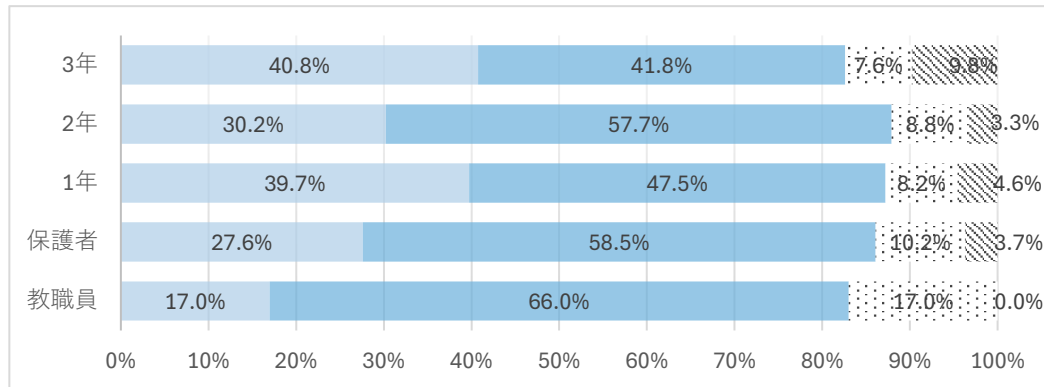
今年度は合宿所の外壁塗装を行い、今後は、体育館のバスケットゴール解体工事、およびガス管修繕工事を予定している。また、網戸清掃や廊下等のワックスがけなど、施設の美化に努める予定である。一方で校舎は築40年を経過しており、更なる改修が求められているため、日々点検等を行い、安心、安全を第一に考え、引き続き施設の維持管理に努める。

⑬学校として、いじめの問題に対する取り組み方針が保護者と共有されている



いじめ問題は近年生徒指導の会議でも多く取り上げられている。校内では事案が発生した際に備えてより有効なフローチャートを再検討するとともに、迅速丁寧な対応ができるように進めている。一方、保護者の回答に3割程度の「否定的評価」があるため、今後さらに学校と保護者との緊密な情報共有に務めたい。

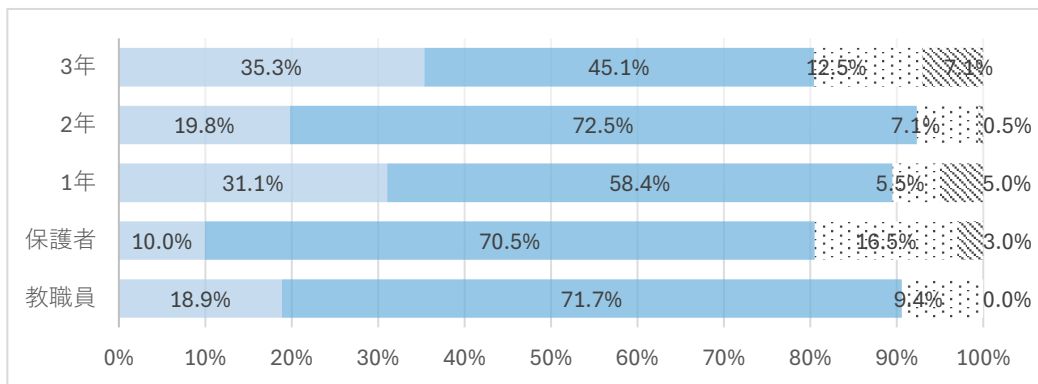
⑭生徒（お子様/自分）の学校生活は充実している



「肯定的評価」が全体の8割に達していることから、多くの生徒が充実感をもって学校生活を送っていることがわかる。この回答割合については、学年間の差違の要因、および生徒自身がどんな理由をもとに学校生活が充実していると感じるのか、などについて分析を深めたい。一方、教職員の「よく当てはまる」の回答割合からは、本校生のさらなる可能性に期待する思いが読み取れる。

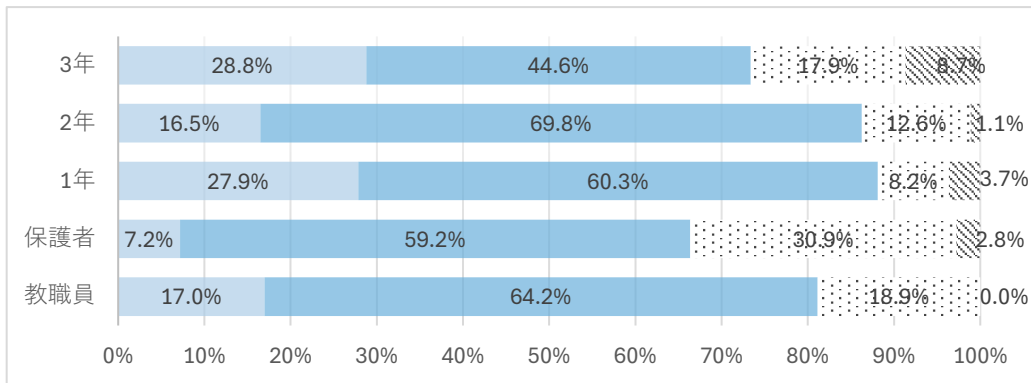
～本校独自質問事項～

⑮本校は基礎・基本の定着を図る学習指導が適切に行われている



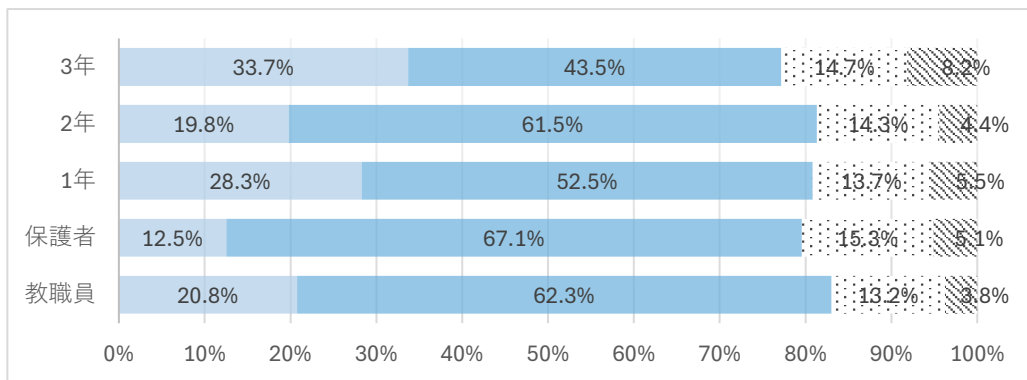
質問②と同様に、昨年に比べ、2年・3年生徒について「肯定的評価」の回答割合が増加したものの、1年生徒については減少した。特に1年の肯定的回答割合が低い結果となっているため、基礎・基本の定着に特に大切な1年次の学習指導の改善を目指す。

⑩本校は家庭における学習習慣形成を促す指導が適切に行われている



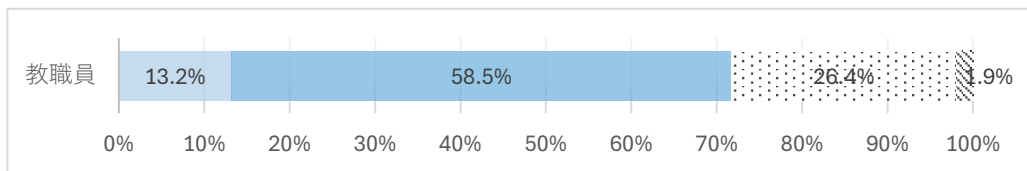
昨年に比べ、1年・2年生徒、教職員については「肯定的評価」の回答割合が増加したものの、3年生徒については減少した。特に3年の「肯定的評価」が低い結果となったため、家庭における学習習慣形成を促す指導の工夫を目指す。

⑪本校は生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮している



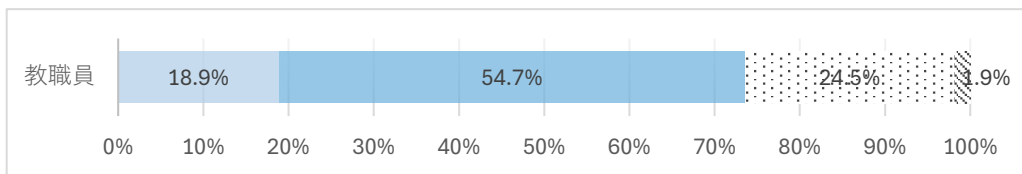
生徒、保護者、教職員ともに「肯定的評価」が8割程度に達している。これはガイドラインに則って適切な休養日を設定した活動計画をもとに活動が行われていることや、生徒が学業や校外での活動との両立が可能な範囲で自分の登録部活動の選択をしている結果であると考えられる。一方で、近年は運動部、文化部ともに活動日が多いを中心に部員が不足する傾向があることから、生徒が部活動に求める意識の変化も感じられる。

⑫本校では地域との連携がはかられている[教職員のみ]



部活動生徒による市民センター行事への参加や、ボランティア有志生徒の運営協力、また地域防災関連行事の参加など必要に応じた地域との連携を行っていることもあり、概ね肯定的評価を得られた。

⑬本校では校内外の研修が充実している[教職員のみ]



授業力向上を目的とした研究授業、教職員向けICT研修、金融経済教育に関する教員セミナーなどを実施したが、「肯定的評価」は7割程度であった。今後も教員の授業改善、教科指導力の一層の向上と校内の研究・研修体制の充実を図り、生徒の学力向上を目指していきたい。